

雜誌と新聞

▲戀愛小説大攻撃

加藤 弘之氏

女學生の風儀の悪いのは學校と家庭と社會と此三つが持合て害してなる、女子の品性修養に就て先づ私の考を言へば、小説を讀む事、これが實に悪い、新聞は讀まぬ譯にはゆかぬから新聞の小説には困まる、一体新聞が小説を載せるなど職務以外の事をやつている、社會改良の一方法として戀愛小説など載せぬやうにして欲しい、讀む方では新聞を讀むために新聞を取るのが、小説を讀むために新聞を取るのが解らぬ、隨て新聞を取れば小説を讀む事は先づ防ぎきれない、私は新聞社が、同盟して少なくとも戀愛小説を載せる事だけは全廢せんことを望む

▲虚榮心を去れ (精神界第六卷第六號)

汝の虚榮心を去れ。虚榮心は苦惱也、罪惡也。我等この心に捉へられたる時は惡魔の身を襲ふと感じ恐れて是に遠ざからざるべからず。然るに汝、時にこの惡魔

に近づくな快とし、この惡魔の命に従ひ、命を果さざるを憂へ、命を果すを樂むの傾向はなきか。汝の虚榮心を去れ。虚榮心を去りて衣食住の問題に苦惱は尠く實際の問題に苦惱はなかるべし。ただあるやうにあれ。銅は銅としてあれ、黄金の裝ひをせんとあせる勿れ。錫は錫としてあれ、銀の裝ひをせんとあせる勿れ。貧者は貧者らしく、富者は富者らしく、愚者は愚者らしく、智者は智者らしくあれ。

▲女子の品性修養に就て『女子文藝』

第一卷第七號

女子は職闘員として地上に遣はされたものではない、天から遣はされた看護婦である、即ち實い教育者である、相互に嫉妬をし猜疑したりすべき筈はない、神が小兒養育を婦人にお任せなされたのは子供を神らしくさせる爲である然るに一般婦人は品性の下劣な爲めに子供をケモノらしくしてしまふ、修養と教師とを間違へて容貌ばかり飾らうとしてゐる、己に克つ獨を慎むといふことは品性修養の一方法ではあるか、神を説かず人の道ばかり教る儒教は効が薄い、佛教は婦人

を惡魔と罵り基督教は人を罪の子と斷る、これでは婦人は未來永劫浮ぶ瀬がないと云ふものである、そこに行くくと日本國教は健全圓滿な發展をして有らんと日本の光榮を女子の本性に歸せしめてある。皇祖天照大神こそ女子が品性修養の一大模範である

▲獨身論 (三輪田元道氏)

近來獨身者の増加する傾向あり予は其原因を尋ねて六を得たり(一)經濟上の運命は獨身者増加の一原因にして之を國に見れば佛蘭西の如き其適例也普佛戰爭以來國民經濟上の悲境は中流以下の社會をして結婚難を纏はしめ其結果は竟に獨身生活の流行となれり朝鮮の細民も亦恐く其例に漏れざるべし(二)禁欲主義も亦一原因たるを失はず僧侶の如きは即ち此主義より出づる獨身者なるが思ふに欲望を解脱し煩惱を去るは佛徒の唱道する所にして兩性的欲望は人類欲望の最も大なるものなれば先づ情欲の禁壓を試みんとするの主意に外ならざるべし(三)境遇の結果此部類に屬すべき獨身者の中に或は妻を亡ひ遺兒の幸福と一家の平和の爲に一身

を犠牲とせる者もあるべく、或は弟妹に學資を給せんが爲に營々として一身を顧ざるもあるべく、恁は至大の同情を注ぐべき獨身者なり(四)成功主義の獨身者は社會の有力者に多くゲーテ、カント、スパンサーの如きは其顯著なる者なりゲーテは獨身に非ざりしも其屢々婚約を破りて顧みざりしは恐らく此主義よりせるものと云ふべく此主義に因る獨身者は獨身生活其物を喜ぶにあらす唯已れの欲する所を遂げんが爲めに性欲を擲うてるものなるべし(五)雌雄淘汰により孤獨の生活を送るものは最も同情すべき獨身者にして此淘汰には精神の内外に於ける長所財産の關係材能及び名譽外貌親切等最も有力なる標準となり外貌は婦人に於て殊に有力なる標準となるもの、如し(六)失戀の結果は道德學者の口にするを悲む所なるべきも道德は社會を離れて立つべきにあらず社會に係る獨身者の存する以上斯る語を用ゆるも亦餘義なからん、以上の各種を綜合すれば獨身者にも有害なるものと無害なる者とあり社會上の見地より言は獨り己をよくして満足せんとする獨身

者は好ましからず自善自棄の獨身者は危険なるものと言はざるべからず成功主義の獨身者は概して有益なる獨身者なるも此は男女の性欲以上に大なる理想を有するものにあざれば學び得る所にあられば斯る獨身者は鼓吹するも増加する者に非ず之を要するに獨身者は有害ならざる限り社會も之を不徳視すべき理由なかるべしフランシス、ペーコン曰く結婚せざる人は良き友良き主人にして善き仕事をなす人なるも善良なる國民と云ふ可らず女房子供を持たざる人の人情に薄き所あるは争ふ可からざる所なるべく獨身者其人の利害問題よりしても妻帯の利益なる事多し(日本弘道會講演)

▲未亡人再婚論(棚橋絢子女史)

軍人未亡人の問題に就いては私は絶對的に再嫁を否認する者では無いませぬ情の上から先夫を忘れるとの出来ぬ爲めに再嫁をせぬと云ふ婦人ならば之れは誠に申分がないと云ふは今日の色々六づかしい生活問題などもあつて一々良女兩夫に見えずと許り構へても居られぬ場合がありますから若し子供もあり自分も外

に便りがない身の上と云ふならば再嫁するも良からうと存じます併し根本的に見ますと一休女子の學問を修めるのは這際時の役に立てる爲では無いませぬまいか結局何事も夫許りを頼りとせず萬一夫が亡くなつたにしても自分が立派に子供を育て、行くだけの働きの活計の途を覺える爲の學問だと私は斯う思ふので無いませぬ最も之は自分の經驗から割出した傾きが御座いますけれど若し今度の様な場合にやつても其未亡人の方々が互に何か一つ自活の出来る藝能を覺えて御出になつたならば何も此頃の様に入釜しく未亡人問題を外から彼れ是れと議論さるゝ事はなからうと存じます然るに今日の學問を爲さる女學生の方の中には學問を以て身の飾りとする夫れを以て誇りとしやうと云ふのはありますけれど實地の必要に備へやうとて學問をしてる方はどれ程無いませう私は今日の女學生の方々が此の點に於て大變に間違つて御出ではないかと存じて居るので無いませぬ(日本)

▲衛生の積極的方法

(醫學博士片山門嘉氏)

衛生普及の根本的方法、通俗衛生の積極的方法とは如何なるものであるか、私の考へは外ではない、運戯の普及獎勵といふのである。運戯の普及獎勵こそ、實に積極的衛生普及の最要手段であると思ふ、運戯も運戯によるが、巧妙なる運戯といふ者は、即ち身體強壯の原因となり、精神慰安の資糧となり、智徳修養の一端となり、頓て無病長命の基となる者である。斯の如く運戯といふものは人間緊要の條件であつて、其 價値たるや、業務勸勵、智徳修養の如く絶體的價値のあるものである。然るに我國從來の風習によれば、運戯といふものは、全く一種の贅物であつて、固より日課としてすべきものでない、用事のない者が一時的にすべきもので、してもしなくても宜しいもの、如くして、夢にも獎勵などは致さぬ、是れ實に衛生上體育上慨嘆すべきことである、此の根本的誤解を覺醒するのは日下の急務である。運戯の人生に必要なもの、運戯の日課として行ふべきを自覺するも、西洋人の如くならねばならぬ、それで如何なるものであるかといふに、文明の

運戯として見るべきものは、各學校又は軍隊、稀れには諸種の團體家庭に行はれて居るやうであるが、其の多くは知らず識らずの中に運戯を輕視して居る有様である、併し近來は運戯を以て、國民教育の必須料として課して居らるゝなどは喜ばしき次第である。其外運戯々々と申すものは、都鄙貴賤の差別なく行はれて居ないではないが、其の文明の運戯として數ふることは出來ぬ。

積極的衛生普及の最良 手段たる 運戯普及の方法といふのは、如何にせば宜しいかといふに、これは先づ町村々に遊戯場を設けて衆人こゝに集つて遊戯を行ひ、其れで以て自ら身體の強壯を計り精神の慰安を得るやうにせねばならぬ。兒童學生の類は夫々學校にあつて遊戯をなすの機會はあるが、其の外の人は青年も老年も男子も婦人も、一定の時日に一定の遊戯を行ふことに勉めねばならぬことは、恰も兒童の小學校に於て相應なる遊戯をするやうに、大人は大人だけに相應する遊戯をせねばならぬ。

▲現代女子の美點 (石黒忠憲氏)

現代妙齡女子の舊婦人に比して優つて居る點を二三述べて見やう、第一は體育である、能く運動もし、食物の思ひ嫌ひもなく、滋養の爲には何でも喰ふから体格が餘程好くなつて來た、第二は知識の點である、其の進歩したことは殆んど對照にならない、文學、科學、社交上の事、一通りは談話が出来る、第三思想の點に於ても獨立し得るやうになつた、昔の女は一も二もなく夫に寄り掛つたものである、第四家計の上に於て、昔の女は唯約かに行届くといふ位のことであつたが、今の女は簿記法で遣つて、一定の規則の下に家政を執り得るやうになつた、第五應對に於ても、夫の留守の場合にも來客に對して應接には決して事を缺かぬ、第六夫を幫助する上に於ても昔は所謂内助に止まり家事を補助する位のことであつた、今の女は上中流を通じて表面き夫の事業を幫助して行くやうになつた、第七獨立生活を望む女子が近年に至つて漸々多くなつた、是れは予か持論から云へば賛成されぬが全く女子教育が進み、實力に富める女子が増加した結果と思はれる